

文 学

科目責任者 頼母木 孝 子
学年・学期 1 学年・3 学期

I. 前 文

本講義では、16世紀後半から17世紀初めにロンドンで活躍した英国の劇作家・詩人であるウィリアム・シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』『十二夜』『ジュリアス・シーザー』の三つの作品の中に見られる、人の心を動かす言葉について考察する。

医師をめざす者にとって、他者と向き合い、他者の声に耳を傾けることは大切な姿勢だと言えるだろう。さらに、本講義で、シェイクスピアの作品を通じて、他者の心に届き、他者の心を動かす言葉に触れ、それについて考えることは有益だろうと考える。

本来娯楽作品である演劇のテキストを取り扱うので、受講者の皆さんの興味を惹きつけるような楽しい授業にしたい。

II. 担当教員

非常勤講師 頼母木 孝 子

III. 一般学習目標

ジュリエットの独白に見られる真摯な恋の表現、アントニーの演説の中で描かれるシーザーの姿、ヴァイオラのオリヴィア評の中に見られる率直な人物観察眼などが、どのように聴くものの心に届き、心を揺さぶっているかを、翻訳と英文、さらに映像を用いて、劇全体の文脈と関連させつつ味わい、考える。

IV. 学修の到達目標

劇全体の文脈の中で、それぞれの場面を理解し、言葉を発する側と受け取る側の心の動きを理解する。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。))

2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	10	8	水	4	シェイクスピアについて 『ロミオとジュリエット』: バルコニーシーン	頼母木 孝 子	1
2		15	水	4	『ロミオとジュリエット』: バルコニーシーンその他	頼母木 孝 子	1
3		22	水	4	『十二夜』: ヴァイオラとオリヴィアの初めての面会	頼母木 孝 子	1
4		29	水	4	『十二夜』: ヴァイオラとオリヴィアの初めての面会その他	頼母木 孝 子	1
5	11	5	水	4	『ジュリアス・シーザー』: アントニーの演説	頼母木 孝 子	1
6		12	水	4	『ジュリアス・シーザー』: アントニーの演説その他	頼母木 孝 子	1
7		19	水	4	まとめ	頼母木 孝 子	1

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

出席30%, 授業への積極的な姿勢30%, レポート40%

Ⅶ. 教科書・参考図書・AV資料

LMSに表示, ipadを持参してください。

Ⅷ. 質問への対応方法

授業中に受け付けます。

Ⅸ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

Ⅹ. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題の発表に対し講評・解説します。

Ⅺ. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前：詳細についてはシラバス（別冊）に記載する。なお、特に記載のない場合はシラバス（別冊）の要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

事後：詳細についてはシラバス（別冊）に記載する。なお、特に記載のない場合は講義内容をまとめておくこと。（所要時間の目安20分）

- XII. コアカリ記号・番号
シラバス別冊に記載。